

新潟県・自然の厳しさ雪国の良さとは

～季節感ある広く長い県土～

日本不動産研究所 新潟支所
不動産鑑定士 清水 紀夫

雪国・新潟

誰でも一度は耳にしたことがある「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」という川端康成「雪国」の冒頭の文章は、中越・湯沢町の景色を描いたものです。汽関車が新幹線に変わった現代でも、その雪深い風景に変わりはありません。

そんな雪国・新潟は、冬のスポーツも盛んで、ソチオリンピックでは、3人のメダリストを出したのも記憶に新しいところです。



「川端康成の小説『雪国』の時代と変わらない雪国・新潟の風景。上越新幹線下りで越後湯沢駅を過ぎた辺り（Max ときの車窓から撮影）」

スキー発祥の地

冬のスポーツの中でも特に人気の高いスキーですが、新潟県は国内スキー発祥の地とも言われています。明治44(1911)年1月12日にオーストリア＝ハンガリー帝国の軍人レルヒ少佐が新潟でスキーを伝授したのが、日本スキーのはじまりと言われています。

このレルヒさん、後に新潟県のマスコット・キャラクターとして採用され、今では新潟県民に広く愛されるようになっていました。そして、ソチオリンピック・男子団体ジャンプで銅メダルを獲得した清水礼留飛選手の名前もこれにちなんでいます。

雪深いのは山間部

一般に新潟県を三等分し、北から順に、下越・中越・上越と呼びますが、このうち最も雪深いのは大陸からの湿った空気が山にぶつかり豪雪となる中越地方です。

ちなみに下越に属する新潟市内は、大陸からの湿った空気が1,000m級の山を擁する佐渡島で遮られて、丁度新潟市中心部を避けて流れていくため、大雪になることはあまりありません。

広く長い県土

新潟県の県土面積は、北海道、岩手県、福島県、長野県に次いで5番目に大きく(東京都・埼玉県・千葉県を足した面積より大きい)、また南北に長いことから、例えば、新潟市中心部から糸魚川市中心部までは、直線距離で140kmに達します。これを都心で比較すると、東京駅から北東方に、千葉県・茨城県を通り越して福島県にぎりぎり入ってしまう距離となり、南西方だと静岡市中心部にまで届く距離になります。

実は大きくて遠い佐渡島

佐渡島は現在佐渡市一市で成り立っていますが、面積は意外にも大きく、もし都心にあつたら、東京都の半分が埋まってしまう程の大きさです。また、比較的沿岸近くに位置する様に見えますが、新潟市からは、時速80kmのジェットfoilで1時間、フェリーでは2時間かかる距離にあります。

自然が豊かな美しい県

新潟県は雄大な自然が売りです。冬は暗く寒いのですが、夏は気温がかなり上がり、また、青空が印象的です。随所で海水浴も楽しめます。季節毎に海と山が楽しめる美しい県、それが新潟県です。